

単立ちの春

■ 思い出を胸に新たな一歩

市内小中学校で卒業式

3月13日(水)から19日(火)にかけて、市内小中学校の卒業式が行われました。



「単立ちの言葉」を伝える卒業生（気仙小学校）

気仙小学校では、保護者や先生、在校生などに見守られながら、卒業生11人が卒業証書を受け取りました。卒業生による「単立ちの言葉」では、入学から6年間の思い出や感謝の気持ちが告げられ、学び舎での6年を振り返るとともに、未来に向けた新たな一歩を踏み出しました。

令和5年度卒業人数

小学校(8校):100人 中学校(2校):115人

成長の願い

■ さくらの杜プロジェクト陸前高田

卒業記念・桜植樹祭

3月17日(日)、さくらの杜プロジェクト初のイベントとなる「卒業記念・桜植樹祭」が、川原川公園で開催されました。同プロジェクトは、東北最大級の桜の名所づくりを進めるもので、今後10年程度を目途に市内で約3000本の植樹を目標としています。市内小中学生の卒業記念として開催された今回は、参加した約50人が苗木54本を丁寧に植樹しました。



桜の記念植樹を行う子ども達

この春に小友小学校を卒業し、親子で植樹を行った千葉秋月さんは「桜を植えるための土を混ぜるのが難しかった。将来、大きく育った桜を見に来たい」と桜の成長を願いました。

災害に備えて

■ 災害時に役立つ防災レシピを学ぶ

春休み ポリ袋クッキング

3月24日(日)、陸前高田グローバルキャンパスで「春休み ポリ袋クッキング」が開催され、31人が参加しました。



親子で協力して調理しました

当日は、ポリ袋内で材料を混ぜ合わせて湯煎する方法で、「和風ツナマヨパスタ」と「チョコ蒸しパン」の2つに挑戦。災害時でも簡単な調理で温かなご飯が食べられることを学んだほか、災害に備えて各家庭に必要なものをチェックリストで確認し、防災知識を身につけました。

参加した金野智隼さん(広田保育園)は「袋の中で揉んで混ぜるのが面白かったし、どっちもおいしくできてよかったです」と笑顔を見せました。

子ども達が
安心して
暮らせるまちを
目指して

東日本大震災追悼式

3月11日(月)、「陸前高田市東日本大震災追悼式」が、奇跡の一本松ホールで開かれました。

会場には遺族や来賓が参列し、午後2時46分に黙祷を捧げ、献花を行いました。

佐々木市長は「私達は、震災によってこれ以上ない悲しみや絶望を味わったが、この震災の教訓を決して忘れることなく、新たなまちづくりを生かすことを心に誓って復興に取り組んできた。今後も、これまで13年に渡って多くの方々との間で築いた絆や交流を大切に、真の復興に向けて歩みを進めていく。また、将来を担う子ども達に、いつまでも安心して暮らすことができるまちを確実に引き継ぐとともに、この大地震や大津波の教訓を後世に伝え、陸前高田市の豊かな自然や歴史文化などの魅力を生かしながら、みんなが支え合う笑顔のあふれるまちとしていく」と式辞を述べました。



祭壇に向かい静かに手を合わせる参列者



花が手向けられた慰霊碑



午後2時46分に黙祷を捧げました



一般向けに設けられた献花場にも多くの人が訪れました